

<匹見下地区>

	意見	回答	担当委員会
1	<p><観光地のトイレについて> 観光として、人を呼ぶために、先般旅行に行った。観光地はどこに行ってもトイレがきれいである。益田市ではまだまだトイレの整備（障がい者用等）が充実していない。 玄関口である益田駅のトイレも利用するには気が引ける。何とかならないものか。</p>	<p>観光を目的としたトイレの整備ではないが、現在、コロナ感染症対応地方創生臨時交付金を利用して市内の主要施設のトイレ改修が行われている。 駅のトイレについては、JR（民間）との兼ね合いもあり、市として推進できないが、EAGAビルのトイレを案内している。 障がい者用トイレの充実も含め、意見を執行部に伝える。</p>	経済建設
2	<p><UIターンについて> この地域も高齢化が進んでいる。先日、県から委託を受けた民間事業者が過疎地域の実状把握に現地調査やアンケート実施した。（買い物問題・先細りが目に見え、地域の努力だけでは解決出来ない状況等）今更こんなことを調査してどうするのか。助けてくれるのかと厳しい意見もあった。以前は造林やワサビの施策で、UIターン者が増え、若者や子どもが一時増えたこともあったが、今はそのような制度もない。制度の復活はないか。</p>	<p>現状、市内中心部と周辺部の計画に差があることは事実である。地域自治組織で地域の課題解決を促すがなかなか推進しない。 議会では、中山間地域振興基本条例を制定し基本計画を行政で作成することとした。 自助・公助の公助が必要である。 UIターン政策やこれからの中山間地域の議論において、各地域の実状に応じた対応が求められる。いただいた意見を参考にさせてもらう。</p>	総務文教
3	<p><UIターンについて> UIターン政策など、これまで匹見の基金が活用されたと聞いた。現在は基金も底をついて、資金がないので対応できないと言われる。見放された感があり、寂しい。</p>	<p>資金面も重要だが、市として匹見地域がどうあるべきかをしっかりと考え、方針を打ち出すべきだと考える。意見を伝える。</p>	総務文教
4	<p><公共施設について> 地域の老朽化した不使用の建物（旧公民館・小学校・中学校・プール・寄宿舎など）について、放置したままで安全面、衛生・環境面から見ても早急な対応が必要。市に要望しているが、予算がないとのことから進展しない。 草刈り等についても、地域に若者がおらずこれからどうしていいのかわからない。 命に関わる問題もあるので、予算がないで片付けるのではなく、現場に来て状況を把握して欲しい。</p>	<p>公共施設総合管理計画があるが、なかなか地域ごとに対応されていない。 合併や統廃合の条件ではどうなっていたのか。 旧匹見地区の公共施設は多く、なかなか手がつけられていない。いただいた意見を執行部に伝える。 議会としても声をあげていく。</p>	総務文教
5	<p><益田市の観光について> 津和野の鷺舞が世界遺産に登録されたと聞く。連携して、益田市にも人の流れを呼び込むことはできないか。</p>	<p>ご指摘のとおり、近隣地域との連携は必要である。益田市にも日本遺産に登録された石見神楽や中世日本の傑作ストーリーの資源がある。地域の持つ資源を有効活用するには連携が必要である。それらを推進するため、地域DMOの設立計画がある。 意見を関係部署に伝える。</p>	経済建設
6	<p><新型コロナについて> コロナ関連について、最近では感染者状況の放送や注意喚起が無いが、どう言う理由か。</p>	<p>現在第8波が到来している。最初の頃は、感染での重症化率が高いとされ、感染状況や注意喚起がされていたが、今現在の状況は、感染しても重症化率は高くなく、危機感をあおるだけの情報発信を控え、感染対策を実施しながら、経済や日常生活を回していくことに重点を置いている。国や県の方針に沿っている。</p>	総務文教

7	<p><新型コロナについて> 必要な情報は知らせて欲しい。知りたい。告知端末を有効に活用して欲しい。</p>	<p>誰が感染してもおかしくない状況である。以前のような誹謗中傷もなく、市民のコロナに関する関心度も変わってきている。情報を共有する事も必要である。 県ではLINEで毎日定期的に地域ごとの感染者数を発信している。LINEを利用していない人への対応が必要だと考えている。</p>	福祉環境
8	<p><新型コロナについて> 感染時の食料物資支給について。</p>	<p>市の対応ではなく、県管理の保健所で対応している。感染者や濃厚接触者でも、無症状者や協力者は感染対策をしての外出が認められている。 (必要最低限) どうしても自力で出来ない場合、保健所に相談すると対応してもらえる。</p>	福祉環境
9	<p><部活動について> 部活動の地域移行について、匹見の中学生は5人しかおらず部活動が出来ないが、地域活動として神楽や太鼓などを行っている。</p>	<p>地域の伝統や文化を通じて大人と子どもが関わっていることは素晴らしい。市内中心部では交流が少なくなっていると言われる。 子どもが少ない地域では部活動が成立しないため、引っ越しをした例もある。 部活動の地域移行については、様々な面において検討していく必要がある。</p>	総務文教
10	<p><議員間討議について> 福祉環境委員会で若者の年齢と言っていたが、ここでの若者の定義は。</p>	<p>今日の説明では、15歳から49歳までとしている。これは合計特殊出生率を算出する際用いられる年齢を若者として資料を作成した。しかし議員間討議の中では、主に高校・大学等卒業後就職して概ね10年～20年の若者たちを意識して議論している。</p>	福祉環境
11	<p><風力発電について> 道川の風力発電の進捗について。</p>	<p>現在の進捗状況は議会では把握していない。県としては、更なる調査が必要と知事が表明していた。</p>	福祉環境
12	<p><匹見小中学校での取り組みについて> ①匹見つろうて子育て 匹見の子どもと地域を繋げる活動として、学校からバスで帰る待ち時間を利用して、匹見住民を学校に呼んで子どもとの関わりをつくろうとしている。 ②津和野小の子どもと公民館職員で匹見に来て、交流会を実施する予定。 ③匹見中学校の活動で、生徒たちが考えたキャラクターを缶バッジにして販売したり、神楽の鬼棒を作成し匹見温泉や文化祭で販売し、完売した。 ④過疎地域ではあるが、みんなの顔が知られているがゆえに小回りがきく。 ⑤市内中心地の大規模校に通えない、通いたくない子どもが、匹見などの小規模校に通える制度を作ったらどうか。通学には空バスとなっているバスを利用できる。</p>	<p>①②③④現在、豊川を皮切りに、社会教育コーディネーターの配置が増えている。 ⑤意見として承る。</p>	福祉環境